

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第13号 令和4年3月24日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

言葉に学ぶ



校長 堀田 稔

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。6年間の小学校生活は、楽しく有意義に過ごせましたか。在校生の皆さん進級おめでとうございます。皆さんが毎日学校に通い、多くの人々と接して、何を学び、何を得たのか、また、今後の社会という集団の中の生活や学びで何を得てほしいのか、1年の締めくくりに清水小学校の子ども達への私の願いを記します。

キッサニアに学ぶ！

中南米発祥の職業体験施設「キッサニア」をご存知の方も多いと思います。ここに行くと、子ども達は目を輝かせ、自分から仕事を積極的に行います。また「色々仕事を体験したい」「仕事の内容を知りたい」など考えます。頼まれごとを家庭ではここまで積極的に喜んで取り組んでいますでしょうか。なぜ子ども達はこの施設でそこまで積極的に、そして前向きになれるのか不思議ではありますがありませんでした。

人は言葉によって生きる！

キッサニアでは子どもに対して、大人と同じくきちんと敬語（または、一人の人として認める言葉）を使います。また、子どもに何かしてほしいときは、強制や禁止に聞こえる言い方はしません。個々の従業員たちは発する言葉一つ一つに注意して発しています。

○注意したいときは質問するように話す

「ちゃんと聞いてください」と言わずに「今から話していいですか」と言う。「今から伝えるよ」と誠意をもって伝えることで、注意をこちらに向ける工夫をしているそうです。

○自立を促す言い方で話す

「〇〇してはだめです」と言わずに「〇〇するといいですよ」「ここは〇〇するとお仕事がうまくいきますよ」と「やめてほしい」ことを伝える時も、自立を促す工夫をしています。

○自覚を促す言い方で話す

「しゃべらないでください」とは言わずに「みなさんはおしゃべりをしていますが、いまは何をする時間ですか」と問いかけます。置かれた状況に対し、自覚を促す言い方です。

いつも気にされ、そうなさっていることと思いますが、学校、家庭、地域が上記の3点を少しだけでも日頃から意識して、声かけをしてみることで、子ども達が今まで以上にスムーズに動けるようになるとともに、多くの物事への意欲を広げ、視野も広がっていくと考えられます。さらに、その経験が「心配りができる大人」「自分と相手のことを大切にできる大人」「自分で考えて行動できる大人」への一歩になると考えられます。

人として、言葉の使い方とそしてそれに見合った姿勢や態度を大切にできる大人になってほしいと思います。今後も人を大切にしたい清水小学校の教育が進んでいくことを願っています。

この1年間、清水小学校にお向けいただいた、保護者・地域・関係機関の皆様のご理解、ご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。「未来を創造する清水の子」の育成のために

次年度もどうぞよろしくお願ひいたします。